# 医師会だより

Vol.3
2006.4.16

発行／㈳大村市医師会
大村市協和町779番地
TEL 0957-54-0151
FAX 0957-54-3646
印刷：（株）つじ印刷


## 医療制度について考えてみましょう

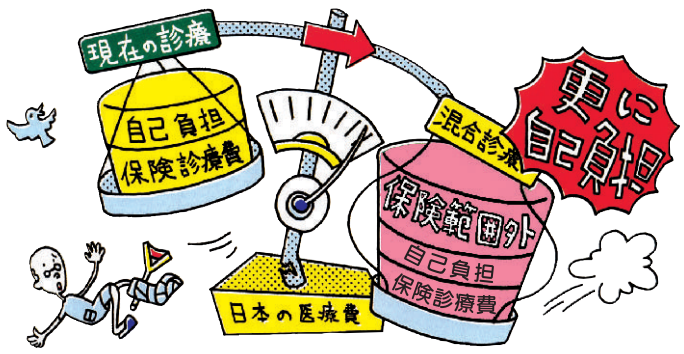
日本の医療費の国際評価はトップクラス
健康達成度総合評価は第1位、医療費は18位

| | 世界保険機構（WHO） | | 経済協力開発機構（WHO） |
|---|---|---|---|
| | 健康達成度の総合評価 | 平等性 | GDPに占める医療費の割合 1988年 |
| 日本 | 1位 高い評価 | 3位 | 18位 低い医療費 |
| ドイツ | 14位 | 20位 | 3位 |
| アメリカ | 低い評価 15位 | 32位 | 1位 高い医療費 |

（出所）WHO「World Health Report 2000」　OECD「Health Data 2000」より作成

WHOにおける日本の医療の評価は非常に高く、その一方でGDPに占める医療費の割合は世界第18位と先進諸国に比べ低く抑えられています。この事は、日本が先進諸国の中でも低い医療費で効率よく皆さんの健康がまもられていると言う事を意味しています。

しかし、国は経済状況の悪化を理由にその低い医療費さえ抑制しようと考えています。その政策のひとつが混合診療です。現在の医療は保険証が使えない（保険で認められていない）

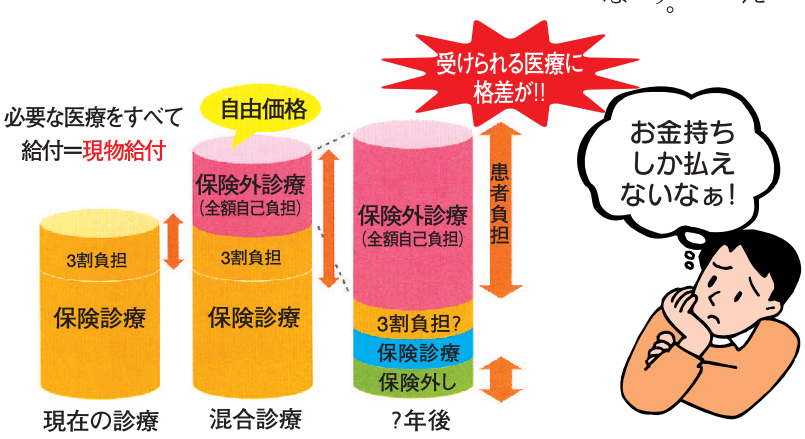



”自由診療“を、保険証を使って行う”保険診療“と同時に行う事を認めていません。混合診療とはこの二つの診療を同時に行う事を認める方法です。

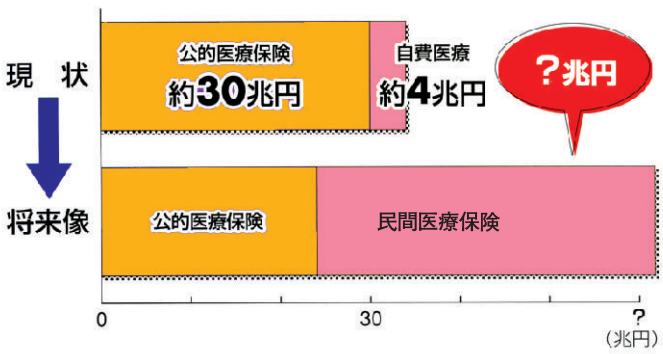
この方法により、保険で認められていない最新の治療や薬を今の治療に加えて行える様になり、いち早くその恩恵を受ける事は可能になります。

しかし、一方では、お金がない人は最新の医療が受けられず、医療に格差が生じてきます。

また、もし将来国が更なる財政悪化を理由に「保険証一枚」で受けれる保険診療の範囲を縮小し『追加料金』を徴収できる自由診療を拡大していけばどうなるでしょうか？結局のところ皆さんの自己負担がますます増え、国の負担は減る事になります。その上、『追加料金』を払う為に生命保険などの私的医療保険に新たに入り、病気の時の備えが新たな負担として上乗せされます。




私達医師会は、このような医療格差を生じ、国民の負担が増える”混合医療に反対します“。そして最新の医療、薬をすみやかに公的医療保険で認めるようシステムを導入し、”いつでも、どこでも、だれでも“平等に安心して必要な医療が十分に受けられる現在の「保険証一枚」で罹れる医療制度を維持する事を望んでいます。




〈全国保険医団体連合会〉資料より

**混合医療に反対します**

**保険証で必要な医療が、受けられる医療制度を守りましょう。**

## 健康コラム VOL.3

### 五月病

大村市医師会　会員
宮村　通典

春の日差しが日々に強くなり、あっけらかんとした青空が目にまぶしい季節となりました。自然界も活気づき、まわりのことが生き生きと新鮮に感じられます。皆さん、ことに新入学・新入社の人たちはオリエンテーションも終わり、いくらか環境の変化にも慣れ「さあやるぞ!!」と張り切っておられることと思います。ところがこの時期、思いがけない落とし穴があるのです。

春は、厳しい冬が終わり夏に向けて心身の準備・調整の時でもあり、心身が不安定な状態にあるのです。四月の環境の変化が特に新入生や新入社員達の心身に影響をおよぼし始めます。未知の人たちとの出会い、知らない土地での生活、昇進による責任の増加、単身赴任による生活の変化などがストレスとなりがちなのです。「こんなはずではなかったのに・・・」「なんとなくやる気がしない」「体の調子が悪い」「朝、気持ちよく起きれない」五月病かも知れません。

こんな時には「チョット一休み。」ゆっくりズムで心身の再調整をしましょう。近くの野山に遊んだり、親しい友人とお喋りしたり気分転換を図りましょう。

「いやもう何もしたくない」「学校にも会社にも行きたくない」と言うのであれば、もう病の域に達しているのかも知れません。早めに専門医へご相談なさって下さい。成年ではありますが牛歩前進が賢明かと思われます。